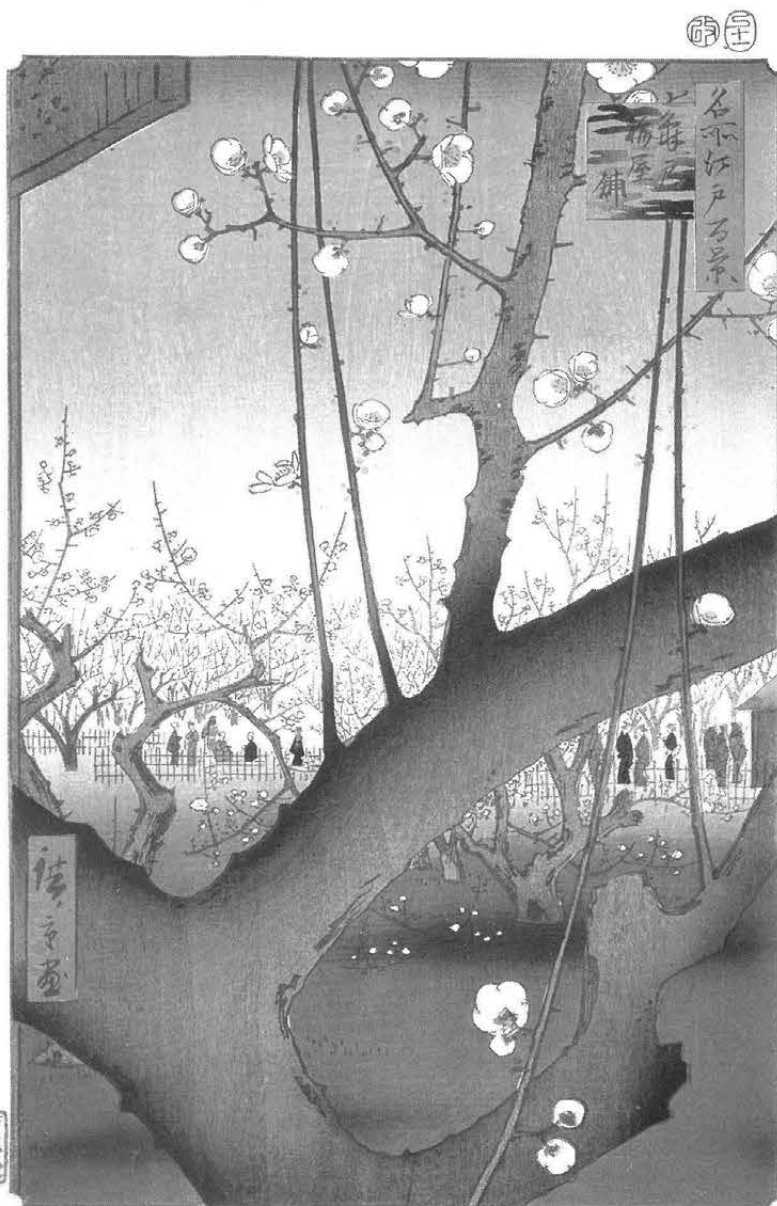


歴史と文化を考えよう

'01 江東区文化財保護強調月間



「名所江戸百景 亀戸梅屋敷」(歌川広重)

太田記念美術館蔵

下町文化

NO.
215
2001.9.26

発行
江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課
〒135-8383
江東区東陽4-11-28
TEL(03)3647-9111
<http://www.city.koto.tokyo.jp/~bunkazai>

■'01江東区文化財保護強調月間

- 殺虫・燻蒸サービス
公開講演会 民俗芸能大会
- 歴史と生活展
時雨忌(芭蕉忌)講演会
- 旧大石家住宅特別公開
- 伝統工芸展

●公式ホームページ開設!!

- 江東歴史紀行
★明治2年、幻の深川上水計画

- 江東今昔(4)
★小名木川河口

- 江東外見発見伝
★箱根湯本正眼寺の冬木家墓

今年もまもなく文化財保護強調月間を迎えます。教育委員会では「歴史と文化を考えよう」をテーマに、10月2日から11月4日までの1か月間、さまざまな催しをおこないます。歴史と地域のなかではぐくまれてきた民俗芸能や伝統的な「技」、そして区民の方々からご寄贈いただいた懐かしい道具の数々をご覧いただきます。

是非この機会に、江東区の歴史と文化にふれてみてください。

文化財保存強化デー

- ◇殺虫・燻蒸サービス

10月2日(火)～4日(木)

公開講演会

10月3日(水)

- ◇「文化財保存の方法」

歴史と生活展 10月11日(木)～16日(火)

- ◇「新指定・新登録文化財パネル展」

- ◇「大人になるまでの道具」

旧大石家住宅特別公開

10月20日(土)～28日(日)

民俗芸能大会

10月21日(日)

- ◇「木場の角乗」ほか

伝統工芸展 10月31日(水)～11月4日(日)

- ◇実演公開

- ◇職人教室(技の体験)

歴史さんぽ 11月3日(土)

- ◇「大川沿岸―清澄・佐賀を行く―」

文化財保存強化デー

10/2(火)～10/4(木)

殺虫・燻蒸サービス

文化財係では、皆さんがご持ちの古文書や絵画、木像彫刻などの保存のために、殺虫・燻蒸サービス（24時間）を行います。大切な文化遺産を後世に伝えるため、是非この機会をご利用ください。

ご希望の方は、9月28日(金)までに文

化財係へ電話にてお申し込みください。

なお、お持ち込み及び返却の日程は次のとおりです。

場所 江東区芭蕉記念館

(常盤1-6-3)

持込み 9月29日(土)～10月1日(月)

返却 10月4日(木)午前中

公開講演会 10/3(水)

文化財の保存に向けて

文化財保存に関するお話です。日本の風土と伝統的な工芸技法との関係から、文化財や身近にあるモノの保存方法を考えます。

皆さんのご参加をお待ちしております。

講演内容

講演 「文化財保存の方法」



保存技術の現状と課題

講師 東京国立文化財研究所

名誉研究員 見城 敏子先生

日時 10月3日(水)

午後6時30分～8時30分

会場 教育センター1階 大研修室

歴史さんぽ

「大川沿岸―清澄・佐賀を行く―」

日時 11月3日(土) 午後1時～3時半

定員 30人(10月22日9時より先着順)

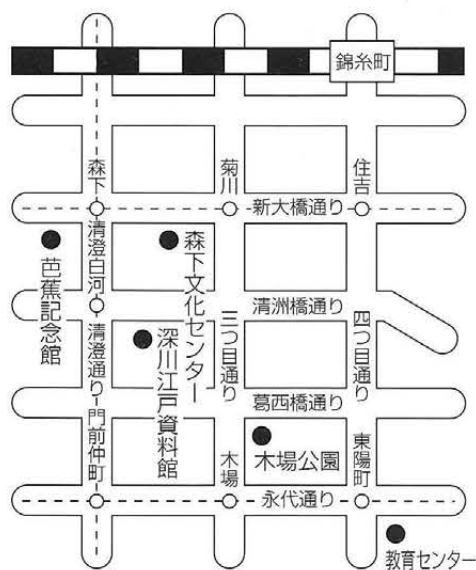
講師 深川江戸資料館学芸員

久染 健夫先生

* *

参加ご希望の方は、電話で文化財係までお申し込みください。

会場案内図



問合・申込先

生涯学習課文化財係

住所 〒135-8383 江東区東陽4-11-28

☎3647-9111 内線3361～3

民俗芸能大会 10/21(日)

江東区で江戸時代に生まれ、受け継がれてきた民俗芸能を一挙に公開いたします。

民俗芸能は、仕事や日頃の生活のなかから生まれたもので、木場の川並(筏師)がはじめた角乗や労働歌の木遣、佐賀町の倉庫街で働く人がはじめた力持、富岡八幡宮の祭礼を彩ってきた手古舞、さらには農村地帯の砂村で生まれた囃子など、いずれも地域に根ざした芸能と言えます。

現在は、それぞれ保存会(睦会)が結成され、技を守り伝えています。この機会に、是非ご覧ください。

午前11時から12時30分	「木場の角乗」	木場角乗保存会
午後1時から3時40分	「木場の木遣」	木場木遣保存会
	「木場の木遣念仏」	同
	「砂村囃子」	砂村囃子睦会
	「獅子舞」	同
	「富岡八幡の手古舞」	富岡八幡の手古舞保存会
	「深川の力持」	深川力持睦会
	※会場は区民まつり会場、都立木場公園です。	



歴史と生活展

10/11(木)〜10/16(火)

歴史と生活展4年振りの復活です。江東区文化センター2階(東陽4-11-3)を会場に、歴史コーナー「新指定・新登録文化財パネル展」、生活コーナー「大人になるまでの道具」を企画・展示します。歴史コーナーは写真・解説パネルを中心に、生活コーナーでは区民の皆さんから寄贈いただいた郷土資料を中心に展示・解説します。江東区の歴史と文化財、昔なつかしい道具たちに会えるチャンスです。

歴史コーナー

新指定・新登録文化財パネル展

昨年度、新たに登録された文化財は、有形文化財6件、無形文化財2件、有形民俗文化財1件、史跡2件、そして新指定文化財2件でした。新登録史跡の徳島藩蜂須賀家下屋敷庭園跡や、新指定の木挽き職人、徳川家康ゆかりの阿茶局墓塔など、写真パネルを中心に紹介します。



阿茶局の墓(指定文化財)

生活コーナー

「大人になるまでの道具」



昭和30年代ころまでに使われていた生活道具を郷土資料(民俗資料)と

して寄贈を受けています。現在、5664点にのぼっています。

ご存じのように、江東区は震災・戦災により、区の歴史を伝える歴史史料は残念ながら多くありません。

そのため、地域の歴史と生活文化を明らかにし、後世に伝えていくためにも、これらの資料を公開する機会を設けました。

人は、生まれてから大人になるまでに数多くの道具を使います。一体、何種類くらいの道具を使うのでしょうか。今回の展示では、人の誕生から大人になるまでに使う道具を4つのコーナーに分けて、展示・解説します。

「Ⅰ 生まれる・育つ」では、人が誕生してから、様々な通過儀礼(お祝い行事)を経て、成長していく際に使う道具を取り上げます。助産婦さんの医療器具、雛人形や武者飾りなどの節句人形、七五三の着物などを展示します。

「Ⅱ 学ぶ・遊ぶ」では、子どもが勉強し、遊ぶときの道具を取り上げます。江東区の近代教育は明治3年に始まりました。また、子どもの着物は兄弟や親戚のお下がりを着ていました。遊ぶときは違う学年の子どもたちが混じって遊びました。たまに来る紙芝居が一番の楽しみでした。文房具、おもちゃ、紙芝居道具なども展示します。

「Ⅲ はたらく」では、働きに出てから一人前になるまでの道具を取り上げます。職人への弟子入り、見習い、修業などを経て、一人前になった印に着的着物がありました。様々な事例を紹介します。

「Ⅳ 結婚する」では、特に女性の道具を中心に、鏡台・針箱などの嫁入り道具、婚

り道具、婚礼衣装、婚礼用お膳などを展示します。結婚はほとんどが親が決めたお見合い結婚でした。個人ではなく、イエとイエとの大事な結びつきとされたのです。それでも当人同志にとっては新たな出発でした。



昔の子どもと今の子ども、比べてみて下さい。

場所 江東区文化センター2階
時間 午前9時〜午後9時(入場無料)

強調月間協賛事業

時雨忌(芭蕉忌)講演会

10月12日は松尾芭蕉の命日です。芭蕉記念館では、この日にちなんで時雨忌(芭蕉忌)講演会を開催します。

日時 10月7日(日) 14時〜15時30分
会場 芭蕉記念館1階会議室

演題 「芭蕉の旅」

講師 帝京大学教授 森川 昭 先生
定員 80人(先着順)

申込 記念館窓口または電話にて

☎ 3631-1448

旧大石家住宅特別公開 10/20(土)〜10/28(日)

旧大石家住宅は、150年以上前に建てられた区内最古の民家であり、区の指定有形文化財となっています。

普段の公開日は土・日曜と祝日ですが、今年度も昨年度に引き続き、文化財保護強調月間の期間中に限り、特別に平日も公開いたします。畑を耕し、海苔を採っていた半農半漁の大石家の暮らしの様子を紹介やベーゴマ・めんこなどの昔懐かしいおもちゃも用意しております。どうぞこの機会に足をお運びください。

ここでは、会場に用意してあります「解説シート」から少し抜き書きしてご紹介しましょう。



大石家は舟入川（四十丁川）の南の端の堀留めに面して建っていました。四十丁川は、いまは東砂6丁目と7丁目の境にある道路になり、四十丁通りと呼んでいます。この四十丁川を挟んで50軒ほどの家が向かい合っていました。

砂町は、亀戸や大島に比べて田よりも畑が多いことから、江戸時代からネギなどを作っていました。その一方、海岸が近いことから海苔を作る家もありました。

り、半分は畑の仕事、半分は海苔を作る仕事をする半農半漁の生活をする人がたくさんいました。

農業では、ネギの他、つまみ菜、京菜、小松菜、西瓜、ナス、キュウリ、ホウレン草などが促成栽培というやり方で作られました。促成栽培とは、温床を使って苗を早く育てるやり方で、ほかの地方のものより早く出来て人気があつたそうです。砂村ネギ、砂村スイカ、砂村丸ナスなどと呼ばれ、砂村で作られた野菜はひろく知られていました。

漁業では、海苔を作っていました。海苔場はいまの新砂の水門近くの沖にありました。11月中旬から翌年の3月終わり頃までが海苔をとる時期です。

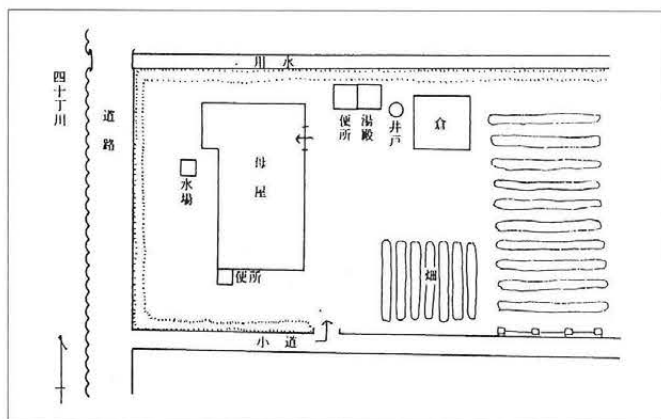
海苔場へは、舟に乗って、四十丁川（今の四十丁通り）から境川（今の境川通り）へ出て、荒川放水路を下って海に出ました。

案内図



- 地下鉄 東西線 南砂町駅下車徒歩15分
 - バス 都営バス
 - 亀21（亀戸駅～東陽町駅）
 - 亀23（亀戸駅～南砂町駅）
 - 門21（東大島駅～門前仲町駅）
 - 草28（葛西橋～神田駅）
 - 亀29（なぎさニュータウン～亀戸駅）
 - 秋26（葛西駅～秋葉原駅）
- 「亀高橋」「東砂4丁目」下車徒歩5分

大石家も海苔を作っていました。その道具が土間に置いてあります。



旧大石家の周辺

江東区最古の古民家を通して、昔の人々の暮らしに想いを馳せてください。
場所 旧大石家住宅（南砂5―24地先 仙台堀川公園内ふれあいの森）
時間 午前10時〜午後3時
(入場無料)



伝統工芸展 10/31(水)～11/4(日)

無形文化財(工芸技術)保持者に認定された職人さんの作品や道具などを一堂に展示します。

機械による大量生産が主流の現在、伝統的な技術によって、一つひとつ手仕事で作られた作品に触れることのできるまたとないチャンスです。職人さんの技によって生み出された工芸品を通して、江東区の伝統文化を再発見してください。

会場 森下文化センター(森下3-12-17)
日時 10月31日(水)～11月4日(日) 9時～17時(最終日16時終了)

実演公開

期間中、会場では職人さんの仕事を間近に見ることが出来ます。日ごろ、見ることの出来ない職人さんの仕事ぶりに接しながら、お話をうかがうこともできます。

公開時間は次の通りです。

10月31日～11月2日 9時～15時
11月3日・11月4日 11時～15時半
別表の日程表をご参照のうえ、お出でください。

職人教室(技の体験)

11月3日・4



日は、職人さんの仕事を体験することが出来ます。直接、職人さんのアドバイスを受けなが

ら、作品を作りあげていきます。2時間だけの「弟子入り」ですが、職人さんの世界をかいま見ることが出来るでしょう。モノを作ることの難しさと、出来たときの喜びを味わってください。

体験の時間帯は、両日とも11時～15時半となります。内容については日程表をご覧ください。

また、受付は当日の申し込みとなります。開始前に会場アナウンスをいたしますので、受付にてお申し込みください。なお教材費がかかります。

チャリティーバザール

期間中、森下文化センターの1階ロビーでは、江東区伝統工芸保存会による作品の販売が行われます。販売している方も職人さんですので、気軽に話をしながら、じっくりとご覧になってください。ぜひお立ち寄りください。

伝統工芸展実演公開・職人教室 日程表

11/4(日)	11/3(土)	日時	11/2(金)	11/1(木)	10/31(水)	日時
木工(細工・櫓) 鈴木 延垣 裁着袴製作 富永 皓 江戸切子 小林 英夫 漆工 大岩 仲治 あめ細工 青木 喜	江戸切子 須田 富雄 木工(彫刻) 岸本 忠雄 提燈製作 杉田 礼二 漆工 大岩 仲治	11時～13時 13時半～15時半	刀剣研磨 白木 良彦 木工(彫刻) 渡辺美壽雄 刺繍(紋章) 天野 一政	木工(指物) 山田 一彦 足袋製作 箕輪庄太郎 手描友禅 和田 宣明	刀剣研磨 白木 良彦 仕舞袴製作 杉浦 武雄 仕舞袴製作 杉浦 武雄	9時～10時半 10時半～12時 13時半～15時

は職人教室(技の体験)です。



文化財係公式ホームページ開設!!

江東区の歴史と文化財

江東区教育委員会生涯学習課文化財係ホームページ

世間ではIT革命が進行中ですが、遂に我が文化財係も公式ホームページ「江東区の歴史と文化財」を開設しました。職員がホームページ作成用ソフトを駆使し、わずか三箇月で完成させたものです。まだまだ改良の余地はありますが、まずは開設することに意義を感じ、思い切って公開することになりました。アップ（更新）は随時行っていきます。江東区の歴史的な文化財が全世界に向けて発信されます。

現在、メニュー（目次）は、大きく

- ①文化財紹介、②歴史・文化情報、③行事、④歴史と文化を知るために、⑤文化財ボランティア、⑥出版案内、⑦記録映画紹介、⑧インフォメーション、などがあります。①文化財紹介では、文化財マップ、区内にある文化財・史跡などのリスト・写真・解説が見られます。②歴史・文化情報では、江東区に関する簡単な歴史を紹介し、地名の由来コーナーでは①で見た文化財リストが地区別に分類できたりします。また、ここでは史跡めぐりのモデルコースなども紹介します。④施設案内では、^{たくみ}工匠壺番館・工匠式番館・旧大石家住宅などをご案内します。⑤ボランティアでは、文化財保護推進協力員・旧大石家友の会の活動の紹介・募集をしています。⑦記録映画紹介では、職人さんの技や作品、木場の角乗などの民俗芸能を撮影したビデオテープを一覧にしています（貸出可）。また、最新号の『下町文化』も掲載します。ほか、いろいろな情報を随時のせていきます。今後、更に充実させていきたいと考えていますので、ご意見・ご感想（勿論、メールでも）をお聞かせ下さい。

「江東区の歴史と文化財」

<http://www.city.koto.tokyo.jp/~bunkazai>



画面は開発中のものです。

明治2年、幻の深川上水計画

私たちの生活に欠かすことのできない飲料水。今年の夏、湯水が心配されたことは、まだ記憶に新しいでしょう。しかし普段の生活の中では、蛇口をひねれば、いつでも水が出てきます。

このように、現代社会では不自由のない飲み水ですが、近代的な水道が整備されるまで、深川に住む人々は、「水」を購入しなければならなかったことをご存じでしょうか。

江戸の町々では、一部の井戸を除くと、神田上水と玉川上水によって飲料水を確保していました。しかし両上水は、隅田川を隔てた深川までは通じていませんでした。また、深川はそのほとんどが江戸時代の埋め立てによって

造成されたため、井戸を掘っても良質の水を求めるのが難しく、深川の人々が飲み水を得るためには、非常な困難をともしました。

そこで登場したのが飲料水販売業者です。彼らは「水売り」や「水屋」と呼ばれて、神田・玉川両上水の余水を水船に汲み取り、本所・深川方面で売りさばっていました。元禄年間（1688〜1704）には水船業者が営業をはじめたといわれます。川柳などにあらわれた水の値段は一杯4文が相場で、明治8年（1875）の例では、一荷の水で2銭5厘から3銭ぐらいたったようです。

明治10年、東京でコレラが蔓延しました。この時は、神田・玉川両上水と利根川以外の川から飲料水を汲み取ることが禁止されました。以後、飲料水は、都市衛生の問題として認識されていきます。

深川では、明治に入って深川飲料水営業組合の成立や江東濾水会社（すいすい）の設立をみますが、東京市内で近代的な改良水道が創設され、給

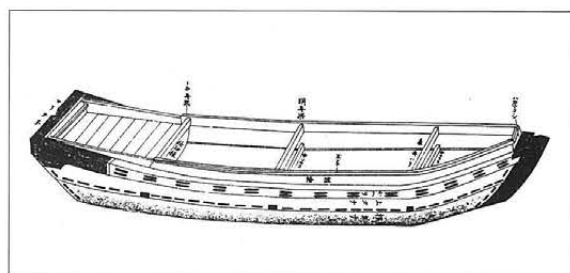
水施設が整えられていくのは、明治31年（1898）以降のことでした。深川方面では、翌32年に改良水道が通水を開始しています（『東京の水売り』東京都）。

このように、深川でも水道が整備されていきますが、すでに明治2年（1869）5月、玉川上水を深川まで引き延ばす計画があったのです。

山城国京都平松家文書（国文学研究資料館史料館蔵）の「東京市制諸件見込上申書」と題された史料の中に、「玉川上水配通書」があり、深川上水計画が記載されています。その計画部分を要約してみしましょう。

浜町河岸（中央区）にて「水掃（吐）（みずはき）」している玉川上水を、新大橋の際で「高枅大溜（たかきさきおどろり）」を伏せ置き、「長樋」を用いて深川へ掛け渡し、深川側でも水を溜める「元枅（もときさき）」を作る。そして一つは、

新大橋から南へ佐賀町通り、永代富岡通りを「水樋」を伏せてとおし、洲崎辺りで吐水にする。もう一方は、猿子橋・森下町通り、さらに南へ下り三十三間堂（富岡2丁目）辺りまで「水樋」を伏せ渡し、これも洲崎まで達するようにする。つまり、浜町河岸から新大橋をとおした上水を、深川で二つの水路に分けて、洲崎まで配水するという計画でした。



水船（『東京市史稿』港湾編第3）

しかし、その後の経緯を見ても、この上水計画は実現していません。詳しいことはわかりませんが、新政府が発足したばかりの明治2年の段階では、技術や費用の面などで実現が困難だったのではないのでしょうか。この頃、駿河藩士の目賀田帯刀が、政府に提出した建白書で、玉川上水を本所・深川へ配水することを説いていることから、当地域で飲料水問題が深刻だったことが窺えます。

深川だけでなく、城東地域でも飲料水を買っていたことが、『江東区の民俗』城東編（区教育委員会）にでていいますので、あわせてご参照ください。

現在は、江戸時代や明治時代とはまったく違う意味で、さまざまな銘柄の「水」が売られています。当時の人々や水売りたちが現代人を見つめたら、どのような感想をもつのでしょうか。

江東今昔(4)

左の写真は小名木川と隅田川の合流点北岸、現在の芭蕉庵史跡展望庭園の所にあった、水上警察小名木川巡查派出所です。

江戸時代には、物資の輸送に、人々の往来にと、活発な発展を見せた水上航路も、明治に入ると一時衰退の兆しをみせましたが、明治も十年を数えるころになると、江戸時代にもまさる活発さを取り戻します。

明治10年(1877) 深川熊井町ほか3カ所に水上警察出張をもうけ、隅田川を行き交う船舶や漂流物の取り締まりを行いました。同12年には、警察における陸上と水上の任務を区別し、水上警察は専ら警邏と査察を行う

ようになります。同18年には、深川西元町(現常盤1-1)に、小名木川を航行する船舶の取り締まりなどを目的とした水上警察小名木川巡查派出所が設置されました。写真に見えるのはこの派出所です。

この地は、江戸時代初めに通船改めの番所「深川番所」が置かれ、主に江戸を防衛する目的で、人や武器の出入りを取り締まっていました。やがて、江戸の地域の拡大に伴い、寛文元年(1661)に小名木川の東端、中川口へと移転し、明治2年(1869)全国の関所が廃止されるまで、「中川番所」として航行する船や積荷の査検を行っていました。小名木川は言わば、江戸・東京への玄関口として重視されてきたといえます。

かつての水上航路要衝の地も、現在では展望庭園に姿を変え、隅田川を望む絶好のビューポイントとして、訪れる人々の目を楽しませて



昭和30年頃の小名木川河口(上)と現在(下)

ています。

こうとうそとみはつけんでん

江東外見発見伝 — 区外資料の紹介 —

箱根湯本正眼寺の冬木家墓

久しぶりの江東外見発見伝です。

お盆休みを利用して箱根に行ってきました。箱根湯本駅から箱根旧街道をバスで10分程行き、「曾我堂上」で降りると、正眼寺(臨済宗大徳寺派)があります。仇討ちで有名な曾我十郎・五郎の地蔵像を安置する曾我堂があり観光スポットにもなっています。境内裏の墓地に入って右手に冬木屋上田家歴代の墓がありました。

冬木屋上田家は、江東区冬木の地名のもととなった材木問屋です。冬木弁天ももとは冬木家の屋敷数であったことは皆さんもご存知のことでしょう。上田家は初代直次が承応3年(1654)茅場町(中央区)において材木問屋を始め、宝永2年(1705)3代政郷の時、のちの冬木町を購入しました(御府内備考)。政郷は正徳2年(1712)以前に深川万年町(現深川1・2)の別宅に隠居します(上田家系図)。尾形光麟・乾山のパトロンであった

ことはつとに有名で、光麟に図柄を描かせたという冬木小袖は時折東京国立博物館で展示されています。

でもなぜ、箱根にお墓があるのでしょいか。江戸時代の初期、初代直次の妻しな(本光院)が正眼寺曾我堂を再建、地蔵堂をも修復し、あわせて客殿・庫院を葺き替え、地蔵灯油田の石堤を修築したといえます(正眼寺再興修理棟札)。しなの墓碑に「当寺再興本光院浄室周清大姉」とあるように、上田家が正眼寺中興の壇那だったのです。上田家の富裕振りが窺われます。

皆さんは今夏の旅先で、江東区関係の文化財を発見されませんか。情報をお寄せ下さい。地域の歴史を探しに足を運びます。

